

地域を知り、 市民を知り 災害に強いまちを 目指す

消防庁職員は、安心・安全業務の
スペシャリストとして消防庁本庁のみならず、
地方公共団体や他省庁でも活躍しています。

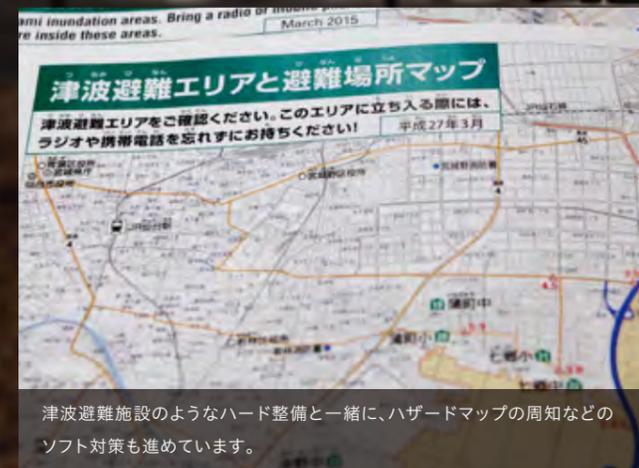
Profile

岡澤 尚美

おかざわ なおみ

仙台市危機管理室防災計画課長

- | | | | |
|-------|------------|-------|----------------|
| 平成18年 | 入庁 消防庁予防課 | 平成24年 | 消防庁防災課主査 |
| 平成20年 | 東京消防庁 | 平成24年 | 米国ウースター工科大学へ留学 |
| 平成21年 | 気象庁 | 平成26年 | 消防庁防災課課長補佐 |
| 平成23年 | 消防庁予防課設備係長 | 平成27年 | 現職 |



東日本大震災の被災地で 防災対策を進める

私は現在、消防庁から仙台市役所に赴任し、防災計画課長として仙台市の地震・津波・洪水・土砂災害などの自然災害対策全般に関する業務を行っています。

具体的には、津波対策として東日本大震災で被災した沿岸部に設けた津波避難用の施設の整備を進めています。整備した施設は、災害時の緊急避難場所としてだけでなく、平常時の地域住民による日常的な防災活動を行う拠点としても活用されています。

また、洪水・土砂災害対策として、大雨時の職員の参集や避難所開設、避難勧告などの発令基準づくりも行っています。とくに、最近では毎年のように台風や豪雨による災害があるので、災害のたびに得られる教訓をもとに各種基準の見直しを重ねています。

地域の防災対策を進めるには、その地域の地勢を知ることや一市民としての視点を持つことが大事です。休日は自転車や遠出したり、市内で活動する野球チームに入るなどして少しでも仙台市を知ることに努めています。



どんな場所でも、 消防庁職員としての覚悟を持つ

これまで、消防庁だけでなく、東京消防庁、気象庁、仙台市役所での勤務や、火災安全工学を勉強するためのアメリカ留学など、およそ消防庁に入庁してから勤務などすることはないだろうと考えていた様々な場所で様々な経験をしてきました。消防庁職員である限り、どこで勤務することになったとしても安全を守るため、安心を支えるための業務を行うこととなります。

また、広島市の土砂災害や御嶽山の噴火災害では救助活動現場に緊急消防援助隊の連絡員として派遣されたこともあります。救助現場の最前線近くでの活動に参加したことで、改めて消防庁職員としての覚悟が芽生えました。

これまで様々な経験をさせてもらったおかげで、物事を多角的に捉えられるようになりました。今後も、固定観念や既存の枠組みにとらわれずに、さらに新しい経験を積み、知識を得ることで、自分自身が安心・安全のために良いと思うことを実現していきたいです。

一日の仕事の流れ

<p>9:10</p> <p>登庁</p>	<p>10:00~12:00</p>  <p>事務処理(打ち合せ) メールチェックや事務作業は朝のうちに終わらせるようにしています</p>	<p>12:00~13:00</p>  <p>昼食。市役所周辺で外食が持参した弁当を食べています。また、仙台市役所サケ育て隊のボランティアをやっているの、鮭のお世話もしています</p>	<p>14:00~15:00</p>  <p>打ち合せ なるべくチームで顔を合わせ、コミュニケーションをとるようにしています</p>	<p>15:00~16:00</p>  <p>津波避難施設の視察 ここは、住民の避難訓練等に使用するほか、国内外からの視察も受け入れています</p>	<p>17:55</p> <p>帰庁</p>
-----------------------	--	---	---	---	------------------------

ここだけの話

学生時代に、阪神淡路大震災や新宿歌舞伎町ビル火災などで、本来人を守るべき都市や建物が逆に多くの人の命を奪っている現実を目の当たりにして、防火や防災に関わる仕事に興味を持ちました。消防庁であれば人の安心・安全のためにやらなければならないことが沢山あるはずだと考えて入庁しました。